

薬剤耐性表現型検査は*in vitro*で特定の薬剤に対する感受性を評価

- 薬剤耐性表現型検査は、薬剤耐性遺伝子型検査の解釈を困難にする複数の耐性変異が存在する複雑な症例の遺伝子型検査を補完する場合がある。
- カットオフ値に基づく Monogram 社の市販の検査の解釈：
 - 下限カットオフ値：ARVの活性が一部残っている時のfold change（倍率変化）
 - 上限カットオフ値：活性が失われている時の倍率変化
 - 生物学的カットオフ値(biologic cutoff)：臨床的カットオフ値が定義されていない場合に用いる。野生型HIVの場合に認められる倍率変化の通常の変動範囲に基づく。

薬剤			PHENOSENSE™ 感受性の低下		評価	
一般名	商品名	カットオフ値 (下限-上限)	Fold Change	↑ 上昇 ↓ 低下	薬剤	
アバカビル	ザイアジェン	(4.5 - 6.5)	4.88		ABC	部分的感受性あり
Didanosine	Videx	(1.3 - 2.2)	2.14		ddl	部分的感受性あり
エムトリシタビン	エムトリバ	(3.5)	>最大		FTC	耐性あり
ラミブジン	エピビル	(3.5)	>最大		3TC	耐性あり
Stavudine	Zerit	(1.7)	1.00		d4T	感受性あり
テノホビル	ビリアード	(1.4 - 4)	0.75		TFV	感受性あり
ジドブジン	レトロビル	(1.9)	1.69		ZDV	感受性あり

▶ 下限臨床的カットオフ値 (太線)
 ◀ 上限臨床的カットオフ値 (太線)
 ▮ 生物学的カットオフ値

このサンプルは
デモンストレーション
だけのために作成